

バティックについて

バティックとはジャワ更紗とも呼ばれる、ろうで模様を描く染めもののことで、腰巻や四角い布を筒状にした腰衣(こしい)などのインドネシアの伝統衣装に用いられます。元々はジャワの一部の地域から広まったものですが、現在ではインドネシア全土に広がり、礼装、普段着として広く用いられています。

例えば、政府関係者が海外の要人を迎える際、地方訪問の際、また庶民でも結婚式に参加する際などに、バティックを用います。その際、男性はバティックのシャツにズボンを着用し、女性はバティックの腰巻にクバヤと呼ばれるドレス、肩掛けを着用します。

バティックの染め方は、まず白地にろうで模様を描き、ろうを塗った部分と塗っていない部分とで染め分けます。ろうを塗ったところは白のまま残りますので、ろうを落とし別の色で染め、それを何回か繰り返すことによってバティックは出来上がります。模様を描く際はチャンティンと呼ばれる、ろうをためる部分のついたペン状のものを扱い、広い面にろうを塗る際にはジュグルと呼ばれる筆状のものを扱います。



バティックの制作風景
チャンティンで模様を描く様子

色調や模様は産地によって異なりますが、大別すると中部ジャワ様式とジャワ北岸式に別れます。中部ジャワ様式のものには元々は王宮が存在する古都・ソロやジョグジャカルタを中心に宮廷文化として発達したもので、藍色、茶褐色など地味な色が用いられます。また模様も、ガルダ(神鳥)の翼、宇宙樹を図案化したものが用いられるなど、ジャワの伝統文化を継承しています。その中には長い間民間人が使用できなかった神聖な模様もあります。

一方、ジャワ北岸の港町では、アラブ、インド、ヨーロッパなど外来の文化が模様にも反映されています。色調は藍色と黄色が主体の鮮やかなものが多く、中国の雲形模様、鳳凰や獅子、アラビア文字で書かれたイスラムの聖句、インドの象、その他ヨーロッパの影響を受けたものには、花束模様や童話『赤ずきん』、『シンデレラ』などもモチーフに用いられるなど、ジャワ北岸のものは自由にモチーフ、作風を選んでいきます。

バティックが一般の民衆に普及したのは20世紀に入ってからのことです。その要因の一つにバティックチャップが挙げられます。これは、バティックの模様を銅製のスタンプで押すもので、手書きに比べ生産性が飛躍的に向上しました。

また、バティックチャップに加え、バティックの普及を決定的なものにしたのが、化学染料です。東南アジアには糸や布を染めるための染料となる植物が豊富にあります。広域で用いられている植物には藍、茜、蘇芳(すおう)、ウコンなどですが、この他にも、植生によって、その地域のみで用いられるものも多くあり、従来、バティックの染料にはこれらの天然染料が用いられてきました。しかし20世紀以降は化学染料が導入され、短時間での染色を可能にしました。このようにジャワのバティックはジャワを超え、インドネシア全域で消費される工業製品となっていきました。

そして70年代に入り登場したのがプリントバティックのです。これにより一般大衆にまで、バティックは広まっていき、それまで低価格、大量生産を売りにしていたバティックチャップは衰退していき、現在ではインドネシアのバティックの9割はプリントバティックであるといわれています。



バティック売場

現在、手書きのバティックは庶民の日常着ではなくなり、観光客や一部の富裕層に向けたもののみになりましたが、ジョグジャカルタの国立芸術大学にはバティックの専攻科もあり、2009年にはユネスコの世界無形文化遺産に登録されるなど、インドネシアにおいてバティックは伝統工芸、芸術として確かな地位を確立しています。著名なバティックデザイナーのモダンなデザインが人気を博すなど、新たな変化の波が訪れています。

インドネシアの市場へ行くと、プリントバティックが数百円程度で売られている光景を目にします。バティックを着用している人々も多く目にするでしょう。市場で売られているバティックや道行く人々が着ているバティックなどのモチーフや模様に着目してみるのも面白いかもしれません。

以上

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★

所在地：Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 38

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,
Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者：PT. JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています(岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託)。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。岡山県産業企画課マーケティング推進室(電話 086-226-7365)までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応していません。